

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	沖縄県
-------	-----

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	那覇市立大名小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	1	2	2	2	2	1	12	21
児童数	49	40	47	45	49	47	1	278	

研究の概要

1. 研究主題

基礎学力の定着と自ら学ぶ意欲を育てる学習指導の工夫
 ~個に応じた指導方法・学習方法の工夫、計算力・音読・漢字プリントの活用、
 教材・教具の工夫を通して~

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 3年生・算数
1・2年生での基礎的な学習を基に3年生の各単元の学習をさらに深め、理解させるため。
- ・ 4年生・算数
3年生の学習を踏まえての発展学習となる単元が多くあり児童の理解に差が出やすいため。
- ・ 5年生・算数
児童の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。
- ・ 6年・算数
小学校の算数学習のまとめの学年として基礎・基本の定着を図ることを目的とするため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 基礎学力の定着と自ら学ぶ意欲を育てる学習指導の工夫 ~個に応じた指導方法・学習方法の工夫、計算力・音読、漢字プリントの活用、教材・教具の工夫を通して~</p> <p>研究の見通し 算数科の授業実践を中心に研究を進めると共に、計算力・漢字力・音読の力・読書の時間の設定を確実にし、継続させることにより基礎的・基本的な学力が身に付いていくであろう。さらに個人カルテ(計算力診断力テスト 10問×10点)の作成により児童のつまずきの発見と次学年への引継ぎがスムーズにできるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 3~6年の実態に応じて学習形態・方法の工夫をする。(例* T・Tによる授業、等質少人数編成、習熟度別編成) 算数の授業前の百ます計算の実施により、計算力の向上と脳の活性化</p>
--------	---

を図る。
「朝のはげみ学習」という、計算力診断テスト・音読・漢字練習・読み聞かせ（保護者による）・読書等の継続学習の時間の設定をする。
各学年部における検証授業を行い、研究を深める。

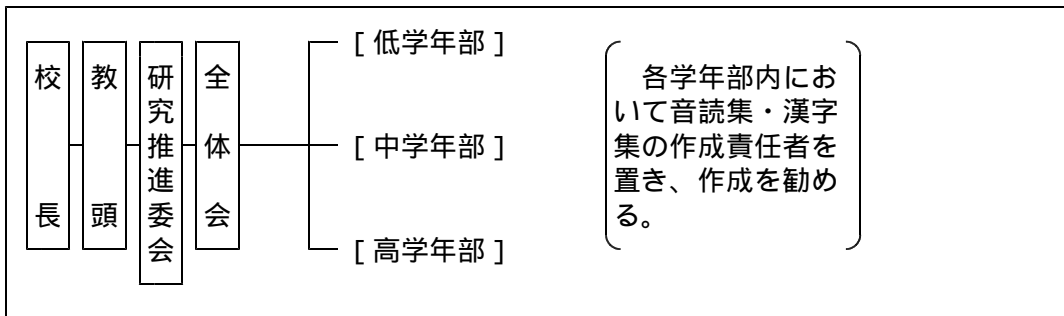
平成16年度

テーマ（平成15年度に引き続き）
基礎学力の定着と自ら学ぶ意欲を育てる学習指導の工夫
～個に応じた指導方法・学習方法の工夫、計算力・音読・漢字プリントの活用、教材・教具の工夫を通して～

研究の見通し
算数科の授業実践を中心に研究を進めると共に、計算力・漢字力・音読の力・読書の時間の設定を確実にいき、継続させることにより基礎的・基本的な学力が身に付いていくであろう。さらに個人カルテ（計算力診断力テスト 10問×10点）の作成により児童のつまずきの発見と次学年への引継ぎがスムーズにできるであろう。

研究の内容・方法
学年の実態に応じて学習形態・方法の工夫をする。（例＊T・Tによる授業、等質少人数編成、習熟度別編成）
算数の授業前の百ます計算（平成15年度のプリントの見直しをする。）
実施により、計算力の向上と脳の活性化を図る。
「朝のはげみ学習」という、計算力診断テスト・音読・漢字練習・読み聞かせ（保護者による）・読書等の継続学習の時間の設定をする。
音読朝会の定例化を図る。
保護者・地域への一層の啓蒙活動をする。
各学年部における検証授業を行い、研究を深める。

(3) 研究推進体制

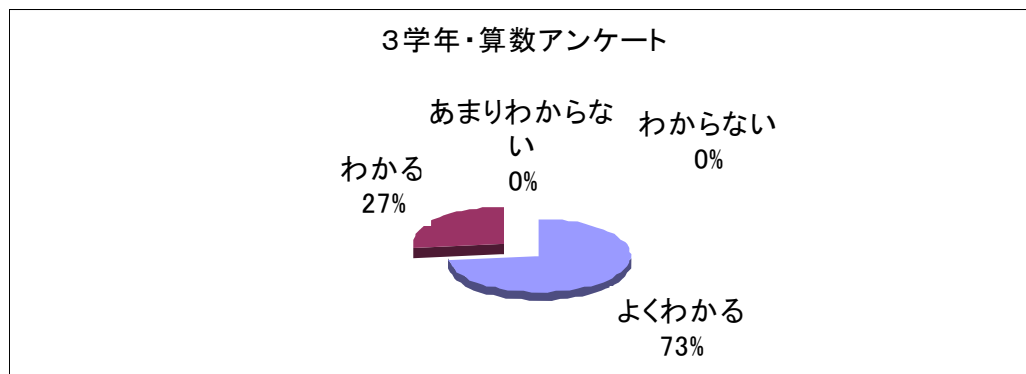


平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

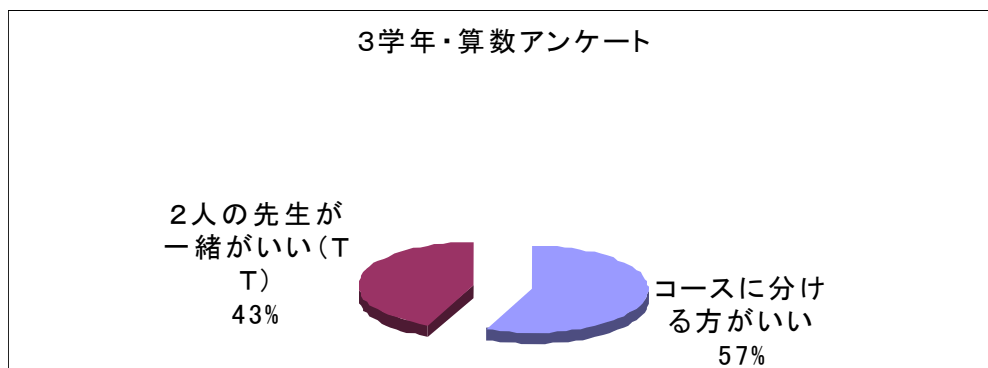
算数アンケートより

「3年生の勉強のしかた」では算数がわかるようになりましたか。



よくわかると、わかるを合わせて全員が算数の学習に対して「よく理解できる。」と感じている。

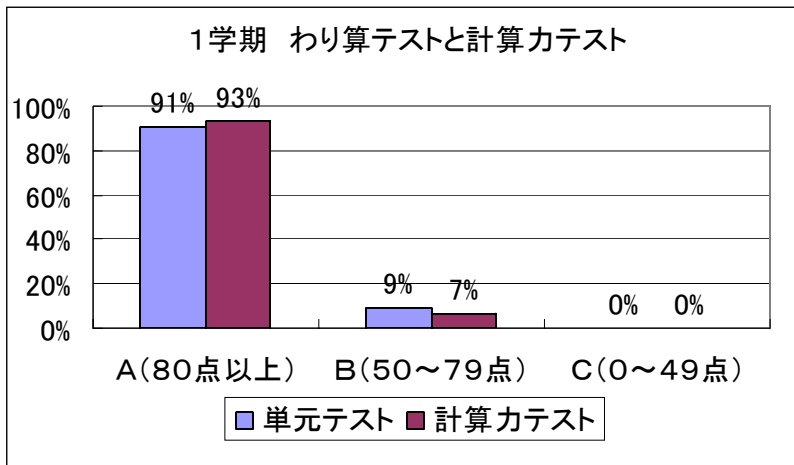
コースを分けて学習するのと、2人の先生でいっしょに授業をするのとでは、どちらがいいですか。



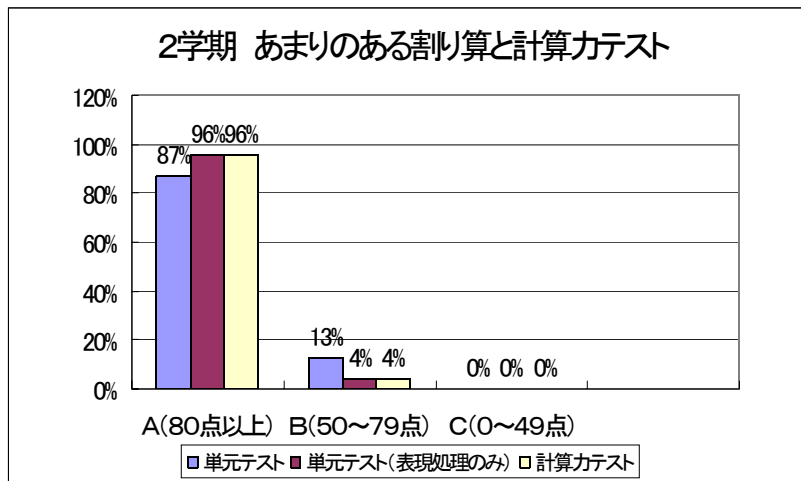
コースにわけた場合もT・Tで学習した場合共に、児童の感想は、「先生に質問がしやすい。」「やり方を教えてもらえるから楽しい。」が多かった。

コースに分けた場合・・・「間違えても笑われない。」「人数が少なくていい。」
2人の先生がいい・・・「2人のほうが楽しい」「クラスみんな一緒がいい。」
「どちらか1人の先生に質問できる。」どちらのコースもよくわかるようになることがうれしいようである。

(2) 単元まとめテスト(わり算 1学期)・(あまりのあるわり算 2学期)と計算力テスト(学力向上対策の一環)より



目標の80点以上の児童が約90%いる。1学期は、かけ算の逆の計算による「わり算」である。朝の学習時間や宿題等でかけ算練習をくり返ししていたので、わり算はたやすくできたと思われる。



あまりのあるわり算は、もとの数からかけ算で出した数を引いて余りを求めるという作業をする。はじめは引き算でとまどう子も多かったが、授業前の百ますプリントによるくり返しの練習により速く、正確にできるよう

うになってきた。

2学期の「あまりのあるわり算」では80点以上の児童は87%となっている。それに伴い、計算力テストも80点以上は、96%に達している。

算数の時間に加配が加わることにより、児童の算数に対する意欲がとても高まった。

手立てが必要な児童において、一斉授業ではあまり個人指導できなかったが、習熟度別指導にすると長い時間関わることができ、また授業の説明もその子にあった展開をすることができ意欲もかなり出てくるようになった。

児童の計算力把握のための診断力テスト（全学年分実施）により、児童の陥りやすい問題や箇所に気づくことができ、普段の授業においてもそこを協調して指導することができるようになった。

単元終了までには計算定着させることができなくても、診断テストの補習や学力向上対策の計算力テスト（中間・期末テスト）をすることにより、少しずつではあるが計算力をアップすることにつながっている。

平成15年度は、2名の加配教員が加わることにより、4月から基礎学力を向上させることを目的に話し合いを進めてきた。そこで授業の充実と、個人の計算力の把握のための「診断力テスト」の実施を行い、各児童の達成度や、つまづきを知り、加配教員による補習時間で力をつけてきた。中間・期末テスト（学力向上対策の一環）で80点以上の達成目標が児童の8割を超えることができた。

習熟度別授業や、T・Tによる授業をすることにより「質問がしやすい」「問題を間違えても笑われない」「算数が楽しくなってきた」等、学習意欲が高まっ

てきた。

2. 今後の課題

3年「掛け算の筆算」・4年「割り算の筆算」等、単元が終わりしばらくすると忘れてしまう児童いる。1～6年間に必要な四則計算を日常的に練習し、定着させていくことが学力向上につながると考えられる。日々の取り組み時間の確保や、学習課題の作成等の工夫が必要であろう。

図形や文章題に対しては、概念形成が出来ない児童も多く、文章を読み理解することや、日常生活や遊びの中で様々な図形に触れる機会が必要だと感じた。

習熟度別指導を展開していく上で、教えてくれる先生を見てコースを希望することが見られるようになった。やはり経験年数も関係してくるので、学級に応じて、授業のほとんどをT・Tで行い、定着の段階で習熟度別指導に編成するように工夫する必要があると感じた。

手立てが必要な児童において、授業や補習の段階である程度理解したかと思われるも家庭でも学習が定着していなく、次の授業までにはほとんど忘れてしまうことがある。また、テストでは良くてもその後の継続指導がうまくいかず、小数点の移動とか図形の公式を忘れてしまうこともある。単元終了後も授業の初めに一問ずつ復習していくような工夫が必要に感じた。

学力等把握のための学校としての取組

* 計算力診断テスト

- ・児童の実態把握と基礎学力の定着を図る。
- ・毎週火曜日「朝のはげみ学習」の時間（AM 8：25～8：40）に行う。
- ・全学年の計算問題を「基礎・基本事例集」より抜粋し、各分野（四則計算）毎に作成（10問×10点）する。
- ・当該学年の前学年の課題より実施する。（1年生は、現学年の教材を学習後実施）
- ・90点を合格ラインとし、80点以下は、補習後再テストを行う。（結果は、個人カルテに記入する。）

* 中間・期末テスト（学力向上対策と呼応して）

- ・当校独自の計算力テスト、漢字力テストを作成し各学期毎に中間・期末テストを行う。
- ・80点以上を合格ラインとし今後の指導に役立てる。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

* 研究成果普及のためのHP作成の予定

現在、発信している当校のHPにフロンティアスクールの概要及び成果・課題・児童の声・活動状況等を作成予定。

* パンフレット作成等今後の予定

平成15年度の研究成果の紀要（パンフレット）を3月末までに作成予定。

* フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動

地域懇談会において当校の研究テーマ・方針・方法等の説明とその時点の研究成果と、児童の実態について発表を行った。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無